

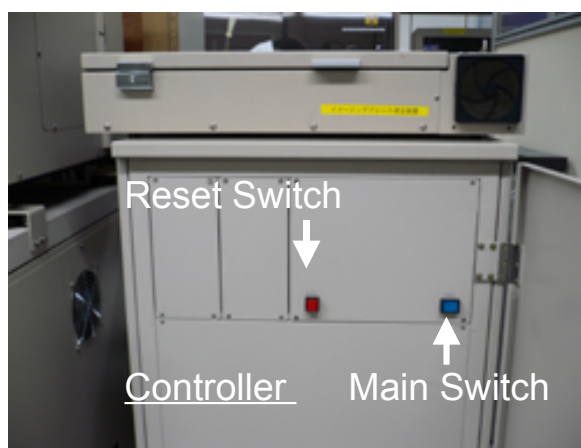
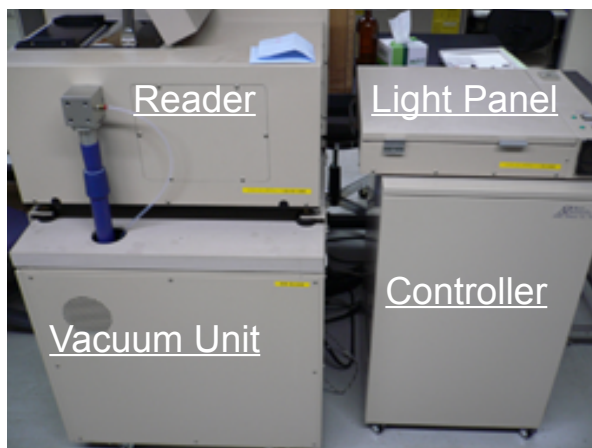
IP Reader Manual

- ★この装置を始めて使う方、不慣れな方、このマニュアルを読んだことのない方は、一度目を通してください
- ★IPリーダーの使用経験の無い方は、研究室の熟練者か装置管理者の指導を受けて下さい
- ★使用希望者は、白板上に使用装置、所属、名前、内線番号を記入
- ★マニュアルの注意点、及び常識外の使用に起因する故障については使用研究室の負担とさせていただきます。ご了承ください

Bruker(旧マックサイエンス)製 IP リーダー(DIP420)使用手順

1. 電源投入

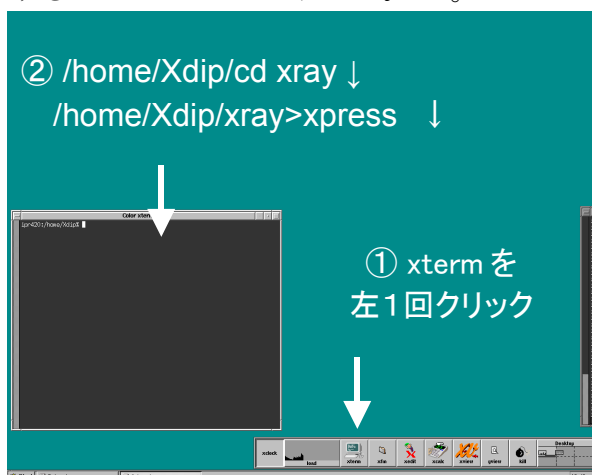
コントローラの電源は、I P 読み取り用レーザーの消費を抑えるため、通常OFFになっています。図中にあるコントローラのふたを開けてMain S switch をONしてください。



2. IPのセットの準備

2-1) IPをコントローラ上にある、ライトパネルで露光されたIPを光で消去する。ふたを開け、IPの表(白い方)をライトに向けてセットし、タイマーを3分程度に設定後消去を開始する。終了後、少し大きめのブザーが鳴ります。

2-2) LINUX-PC上で、個々の研究室のdirに移動し、XPRESSソフトを立ち上げる[①-②](ここではxrayへ)。

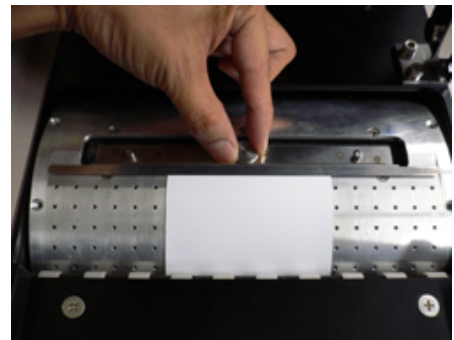
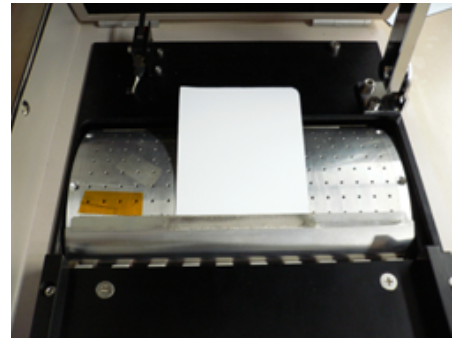


※XPRESS 立ち上げ後 Error/Warning がでますが Clear で問題ありません

2-3) XPRESS が立ち上がったら Datum (ゼロ点設定)を行い、準備完了[③-④]。

3. IPのセット

3-1) 読み取り部のふたを開き、VACUUMをON(⑤)した後、IP SET (順回転)とDIS (逆回転)を用いながら(⑥)ドラムにIPを巻きつけるようにしてセットします。基本的には、右下図のように i) ホルダーに差し込んで ii) ネジ止めをする の順番で行ってください。



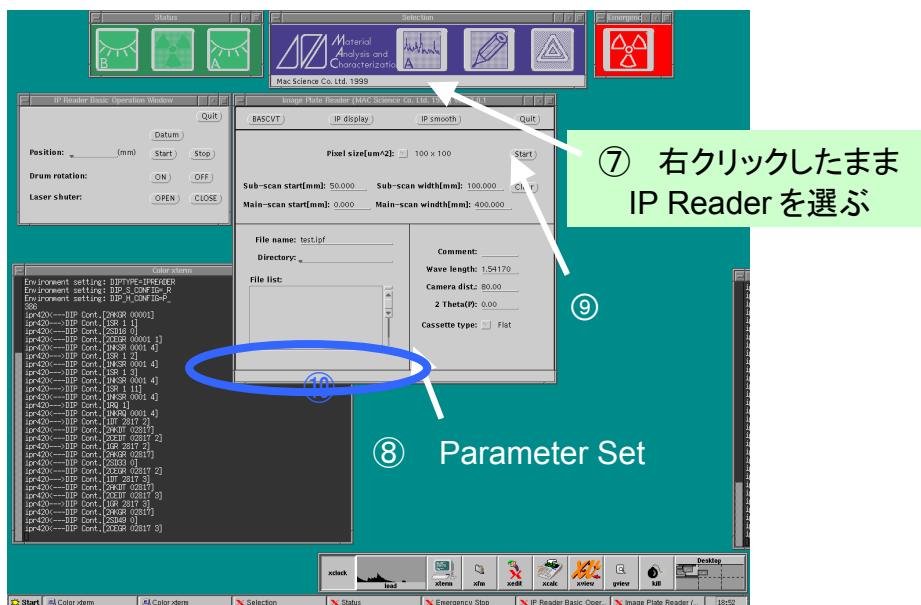
※Cation! : ネジはしっかりと締めて下さい。IPのたるみも無いように！万が一、読み取り用光電管が破損した場合、再起不能になる可能性があります。(製造メーカー吸収合併のため)

3-2) IPセット終了後、ふたを閉めて、真空度をチェック (Vacuum Unit 横)。
-95から-100 mmHg程度ならOKです。

※-90mmHg以下の真空度ではErrorがでます。原因を突き止めてください

4. IP 読み取り

4-1) PC 画面から IP Reader を立ち上げ、パラメーターをセット。



<通常のパラメータ>

Pixel Size: 100*100 μm^2

Sub-scan start [mm] : 50.0

Sub-scan width [mm] : 100.0

Main-scan start [mm] : 0.0

Main-scan width [mm] : 100.0 (400.0 でも時間は同じ)

File name: ***.ipf

4-2) パラメーターをセットしたら、IP Reader 画面上で **START** を押す (⑨)

4-3) 読み取り部のドラムが回転し始め、IP Reader 画面左下(⑩)のところに、WaitIP reading is on process!と出てくる

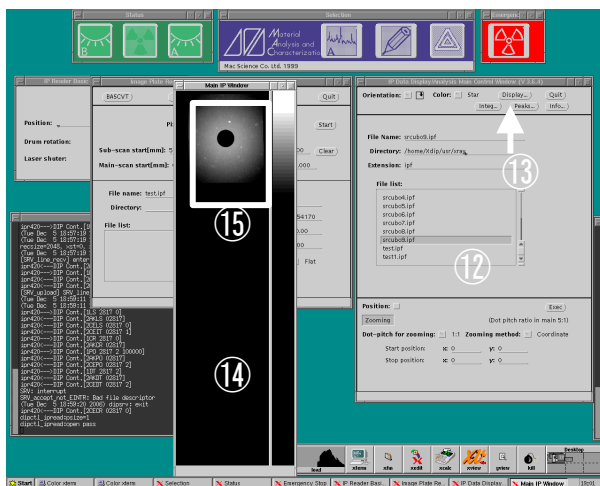
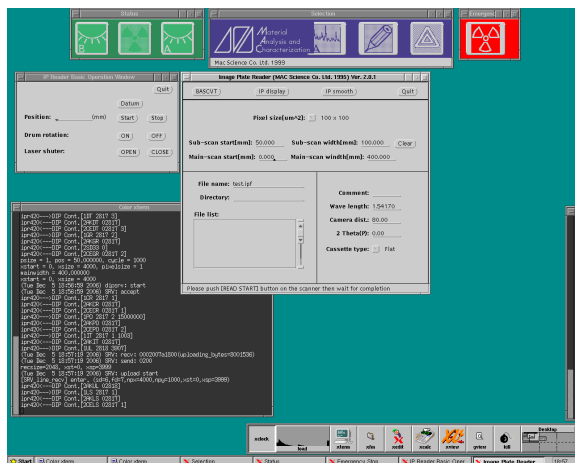
4-4) 5秒程度で[**READ START**] ...という表示に⑩の部分が変わるので、読み取り部本体の **READ START** スイッチを押すと読み取りが開始される

4-5) 2分程度で読み取り終了

4-6) **VACUUM OFF**

5. IP DISPLAYを用いてのデータの表示

⑪

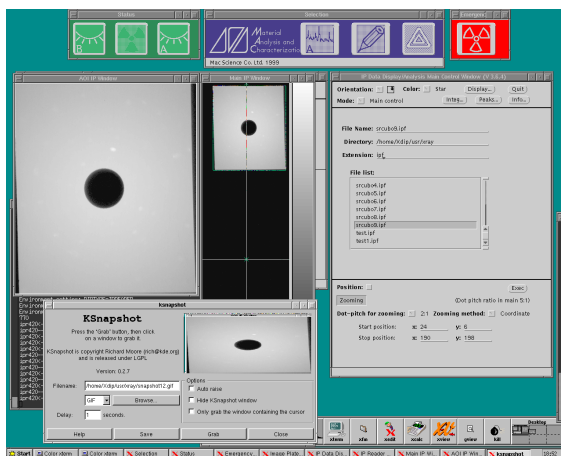
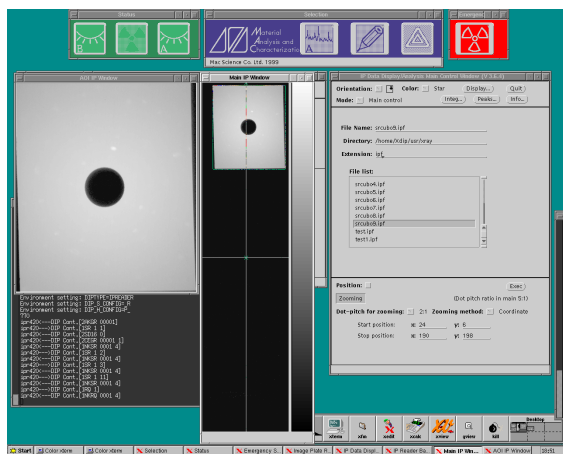


5-1) ⑪のIP displayをクリック（もしくはコマンドラインからipdsp↓とする）

5-2) すると右上図⑫のツールBOXが立ち上がるので、目的のファイルを選びDisplayボタン(⑬)をクリックすると⑭が立ち上がる

5-3) ⑭のBOX中で⑮のように拡大したい範囲を選択すると、下図⑯のようなBOXが新たに現れる。

5-4) 画像に残したい場合には、xtermを新たに立ち上げて(⑰)、個々のdirへ移動後ksnapshot↓と実行するとキャプチャソフトが立ち上がるので、



以上、取扱い上不明な点については、山浦（A472号室、内線63461）まで。